横田基地への米空軍特殊作戦用オスプレイ配備通告に抗議し、その撤回を求める抗議声明

2015年5月14日 日本平和委員会

日米両政府は5月12日、米空軍横田基地(東京都)に特殊作戦用の垂直離着陸機CV 22 オスプレイ10機を配備すると発表した。

私たちは、国民の命と平和を脅かすこの計画に抗議し、撤回を求めるととともに、周辺住民と自治体、広範な人々と力をあわせ、この計画を撤回させるために、全力をあげる決意を表明する。

この計画の異常さは際立っている。それは、沖縄県民と全国各地の住民が「危険な墜落 機」として配備撤回を求めている米海兵隊のMV22 オスプレイよりも、重大事故の発生率 が米軍・防衛省の統計によっても少なくとも3倍以上高い。それはこのCV22 オスプレイ が、敵地に侵入して米兵を救出するなど、危険な戦闘に投入される特殊作戦用の軍用機で あり、そのための過酷な低空飛行訓練や夜間飛行訓練を必要としているからに他ならない。 横田に配備されるオスプレイも同様の訓練を行うことを、中谷防衛大臣が認めている。こ のような危険な軍用機を、人口密集地の真ん中に位置する首都・東京の横田基地に配備す ることの異常さは明白である。しかもいま横田基地では、米海兵隊や特殊作戦部隊による パラシュート訓練や、MC130 特殊作戦機による首都圏全域での低空飛行訓練等、危険な 実戦的訓練が強化されてきている。もしCV22 オスプレイが配備されれば、横田基地とそ の周辺で、いっそう激しい低空飛行訓練等、危険な特殊作戦訓練がくりひろげられ、深刻 な被害がまきちらされることになるのは必至である。また、北富士・東富士演習場や相馬 ヶ原演習場、群馬県上空の自衛隊訓練空域、低空飛行訓練ルートなどを使って、広域にわ たって低空飛行訓練や自衛隊との共同演習がくりひろげられることになる。しかも、沖縄 に展開し、沖縄に配備されている特殊作戦部隊との訓練をくりひろげ、沖縄にもさらなる 負担をもたらすことになる。

このような異常で危険きわまる計画を許すわけにはいかない。そもそも米本国では、このような人口密集地のど真ん中に巨大空軍基地を置き危険な激しい訓練を行うことはあり得ない。そのようなことを容認する軍や政府の首脳は、国民の命や環境を軽んじるものとして厳しく批判されるだろう。このような計画を平然と進めるのは、日本を属国扱いし、沖縄県民・日本国民の人権を無視しているからに他ならない。また、それを唯々諾々と受け入れる日本政府は、まさに属国政府そのものである。

日本政府は、今回の計画に周辺自治体や住民がこぞって反対しているのを承知しながら、 これまで計画を知らぬ存ぜぬで押し通し、事前に何の説明もなく「通告」してきた。これ は、民意を無視した沖縄へのオスプレイ・新基地建設押しつけと同様のやり方である。

この日米政府の「通告」に対し、周辺住民と自治体はこぞって怒りを表明し、反対の声をあげている。この計画は様々な立場の違いを超えて、命と人権・民主主義と平和を守る、住民・自治体ぐるみの配備反対の共同の輪をつくりださざるをえないものである。私たちは、沖縄県民のたたかいとも連帯しながら、広範な人々と力をあわせて、横田基地へのCV22オスプレイ配備反対のたたかいを、東京・首都圏・全国で広げるために尽力する決意を、ここに改めて表明するものである。